

院内感染11人、発生から「収束宣言」までの経緯 - 等潤病院に学ぶCOVID-19院内感染対応

◆Vol.1

発端はコロナ疑い救急患者、抗原検査・PCR検査で陰性確認後に発症

レポート 2020年9月28日(月)配信 聞き手・まとめ：橋本佳子（m3.com編集長）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対応で、医療機関が直面するのが、院内感染の発生時だけでなく、発生時にどう対応するかという問題だ。濃厚接触者調査、保健所とのやり取り、院内感染の事実の公表の在り方などのリスクマネジメントに悩む場面が少なくなく、他院での取り組みが参考になる。

社会医療法人等潤病院（東京都足立区）ではこの8月、院内感染を経験し、理事長の伊藤雅史氏は8月23日、記者会見を開き、その事実を公表した。会見で伊藤氏は、2次救急医療に従事しつつ、COVID-19の感染対策に取り組む難しさも語った。

伊藤氏に、院内感染発生や会見の経緯、発生後の対応、9月7日に「収束宣言」するまでの経緯取材した。初回は発生と対応の経緯を時系列的に紹介、2、3回目で伊藤氏のインタビューをお届けする（2020年9月11日に取材。全3回の連載）。

等潤病院は164床（一般病棟92床、地域包括ケア病棟30床、回復期リハビリテーション病棟42床）という体制で運営する、地域の2次救急医療を担う病院だ。1日の外来患者数は約260人。3月からCOVID-19対応を準備を本格化させ、PCR検査等で診断が確定するまで自院でCOVID-19疑い患者受け入れる専用個室を5階病棟に用意するほか、3月18日以降、入院患者の面会は原則禁止したり、発熱患者の動線を分けるなど、各種の感染対策を講じてきた。



原則面会禁止は現在も継続。

2019年度の救急搬送件数は2724件。COVID-19の流行拡大に伴い、都内では発熱を伴う救急搬送の受け入れを断るケースが増える中、等潤病院では断ることなく受け入れ続けた結果、救急搬送件数は、4月は対前年同月比57%増、5月は同40%増と急増した。8月後半は院内感染のため救急受け入れを制限したため、8月全体では前年同月比10%増にとどまったが、8月前半に全体の7割が集中しており、多忙が続いていたことがうかがえる。

等潤病院の救急搬送件数

	4月	5月	6月	7月	8月	計
2019年(件)	207	182	191	230	265	1,075
2020年(件)	326	255	240	280	292	1,393
対2019年(%)	57	40	26	22	10	30

COVID-19の患者は、足立区でも6月は週1人くらいの感染で留まっていたが、7月中旬くらいから急に増えてきた。区内では「夜の街」クラスターが発生するなどして、週に70、80人となり、8月の初めに120人ほどになっていた。等潤病院でも、外来患者で1日1~4人の陽性者が出る状況だった。

7月末から8月初めの職員感染

7月31日（金）、その日は公休日だった5階病棟の看護師Aから発熱の報告があった。翌8月1日、迅速抗原検査で陽性、同日保健所に連絡、PCR検査は2日に陽性が判明した。保健所には、以前にCOVID-19疑いで救急搬送され、当該病棟に個室管理の上で入院し、PCR検査陽性のために他院に転院した複数患者との関係などを調査してもらったが、関係は認められないとの判断だった。看護師Aの感染経路は特定されなかった。

看護師Aは勤務中、マスク着用、手洗いも徹底していたが、控え室でマスクを外して昼食時、30分間程度の会話を交わして他者に感染させるリスクがある日が2日間あった。その時に同席した看護師4人を濃厚接触者として扱い、PCR検査を8月3日に実施した。8月4日に結果が判明、4人中1人が陽性（発熱あり。以下、看護師B）、残る3人が陰性だった。

その時点で保健所からは、「それ以上の検査をするかどうかは病院の判断」と言われたため、8月4日から当該病棟の他の看護師にも自主的にPCR検査を実施した。8月6日までに結果が出たが、22人中、2人が陽性（無症状）だった。これらの結果を全て保健所に報告したが、いずれも看護師A、Bの濃厚接触者ではなかった。陽性者には自宅待機（14日間）の対応とし、当面様子を見ることになった（後述の8月15日以降の院内感染との関連は、後の調査でも認められるまでには至っていない）。

8月15日~22日

8月15日、土曜日の夕方、5階病棟の入院患者が発熱、週明けの17日に迅速抗原検査を実施したところ、その日に陽性が判明した。この患者はCOVID-19疑いで救急搬送され入院して個室管理し、PCR検査と迅速抗原検査で陰性だったため、4人部屋に移した患者だった。18日に出たPCR検査の結果は陽性だった。4人部屋のもう1人も17日午後発熱したため迅速抗原検査とPCR検査を実施し、抗原検査陽性、翌日にPCR検査陽性が判明、残る2人は無症状でありPCR検査のみを実施したところ、19日までに2人とも陽性が判明した。

さらに19日までに5階病棟の入院患者全員にPCR検査を実施した。4人部屋から少し離れた部屋の1人で陽性が判明した。それに並行して他病棟の有熱患者に対してPCR検査を実施し、20日に4階病棟1人の陽性者が確認された。

以上までの陽性6人は全て救急搬送された入院患者で、うち5人はCOVID-19疑い患者で個室管理しPCR陰性を確認して多床室に転室した患者であった。これらの患者のケアは直接行わなかったものの、全病棟でリネンなどを担当する看護助手1人が発熱し、PCR検査陽性が確認された。

足立区保健所には1例目から逐次報告して指示を仰いで、対応を協議していた。8月21日には院内に立ち入り、積極的疫学調査を開始。足立区は5人以上のクラスターが発生した公共施設等の名称を公表する方針であり、医療機関は原則、対象外だったが、公表の打診を受けた。区と交渉し、8月23日に記者会見を開くことを決定した（詳細は、Vol.2を参照）。

8月23日

足立区の区役所内で、伊藤理事長が記者会見し、入院患者6人と職員1人を合わせて計7人の新型コロナウイルス感染症感染を公表。経過を等潤病院のホームページに掲載した（詳細は、Vol.2を参照）。

8月24日~9月2日

8月24日から足立区保健所、東京都実地疫学専門家チーム（TEIT）、厚生労働省クラスター対策班の合同調査が開始された（計5日間）。国立感染症研究所実地疫学専門家養成コース（FETP）修了者チームも25日から参加した。さらに27日から国立国際医療研究センター感染対策チームも加わり、調査を実施した（詳細は、Vol.3を参照）。

この日以降、入院患者157人と、等潤病院職員や関連施設職員、委託業者を合わせて407人、総計564人に対し、PCR検査を実施した結果、上記7人のほかに入院患者1人、退院患者1人、職員2人の陽性が確認され、陽性者は計11人となった（患者8人、職員3人）。この入院患者1人は、記者会見時の陽性6人の患者とは別の病棟の大部屋で発生した。患者8人中、7人は感染症指定病院等に転院、残り1人は等潤病院で入院治療を継続して軽快、職員は自宅等で療養し、9月7日までに復職した。

9月7日までの調査期間中に、病院が自主的に改善した取り組みは下記だ。9月2日の足立区保健所等による最終調査および報告会で、その内容を説明した。

<看護部で作成したコロナ対策 PPE 等使用指針比較表>

従来への対応	指導後の改善点
PPEの着脱、ゾーニングに関して口頭周知	ポスター表示、赤テープ、緑テープでゾーニングをした
フェイスシールドはエアロゾルの発生するケア時は着用する	フェイスシールドは疑い患者・陽性患者の痰吸引、口腔ケア、食事介助時にも指導する
N95 マスクは7日に1枚、名前を書いてビニール袋に入れて保管、勤務終了時破棄する	1 勤務 1 枚を原則とする
ガウンは1 勤務 1 枚	1 回ごとに使い捨てを原則とする
フェイスシールドは個人もちとし、シールドックで清拭してリユース	フェイスシールドは原則使い捨てとするが、フェイスシールド個々の特性を考慮して使用する
次亜塩素酸ナトリウム液のボトルはスプレータイプに詰め替え（空間散布には使用せず、実際の使用は稀）	スプレータイプは拡散するため中止し、薬剤科から上がってくる茶色のボトルのまま、詰め替えせず使用する

<看護部で作成した感染対策改善比較表>

従来への対応	指導後の改善点
廊下の PPE 設置のワゴン（台）は清潔、不潔が混在している	二段のワゴンを使用し、上段に清潔用 PPE、下段に不潔物おく
ラビジェルのポシットについてポシット下げる人、下げない人がいた	日勤の人数分を準備し常に下げていつでもどこでも手指衛生できるようにする。
おむつカートに清潔なもの、不潔のものが混在している	グローブ、エプロンは必要最低限置く。清潔なパジャマ、おむつ、シーツは別のワゴンにのせ おむつ交換時 引いて移動する。おむつは 1 ラウンド都度捨てる
夜勤者の仮眠用の寝具は 1 週間に 1 回シーツ交換	毎回一人一人、シーツを変える
清拭用タオル、顔用おしぼりは保温庫で温めている	今後はディスポタオル、おしぼりに変更する。温めは電子レンジで行う。現在使用中のおしぼり保温庫を業者に戻し、新規で電子レンジを購入する
点滴ミキシング台が廊下に置いてあり、廊下でミキシングしていた	処置室のダムウエーターの前に置き、そこでミキシングする。注射カートの置き場所は今後、検討する。
スポットチェック（バイタルサイン測定結果を電子カルテに自動転送）の台にものを乗せすぎ	必要な分だけ準備する。
飲水チェック表の紙製バインダー	アルコールで清拭できる素材のものに変更する

(2020年9月2日に等潤病院がまとめた報告書による)

9月7日

院内感染発生に関連した最終の発症日は8月22日と判断された。その後の新たな発生は見られないことから、足立区保健所と協議の上、2週間以上経過した時点で収束を判断することにした。9月4日は金曜日であることから、翌7日、月曜日に「収束」を宣言。その経過を等潤病院のホームページで公表した。

【等潤病院（東京都）に学ぶCOVID-19院内感染対応】

- Vol.1 院内感染11人、発生から「収束宣言」までの経緯
- Vol.2 記者会見で自ら院内感染を公表した訳
- Vol.3 患者・職員等564人にPCR検査、「収束宣言」

新型コロナウイルス
特設ページ

COVID-19

最新コロナ情報を確認

